

修 士 論 文 要 旨

看護学専攻 小児看護学分野	学籍番号 221603 氏 名 五味 正治
論文題目	住民同士の助け合いにおいて大切なことと助け合い行動 —過疎地域で暮らす子育て世代に焦点を当てて—
キーワード	助け合い、過疎地域、子育て世代、認識、住民
<p>【研究背景】 過疎地域は、今後のさらなる人口減少と社会資源不足により、経済活動や行政サービス、ライフライン等、日々の生活に深刻な影響を及ぼすと推測され、過疎地域で暮らす子どもや子育て世代が、住み慣れた地域での生活を継続していくには、今以上に困難が生じると予測されている。しかしながら、過疎地域で暮らす子育て世代の住民の助け合いに対する認識や行動は、現状では明らかにされていない。</p> <p>【研究目的】 過疎地域で暮らす子育て住民が考える、住民同士で助け合うために大切なことと、実際の助け合い行動を明らかにする。</p> <p>【研究方法】 研究協力に同意が得られた過疎地域の中학생までの子どもを養育している住民9名に、2022年7月から2023年2月にインタビューガイドに沿って半構造化面接を行い、質的帰納的に分析した。倫理的配慮として、三重県立看護大学倫理審査会の承認を得て実施した（通知書番号 220303）。</p> <p>【結果】 子育て住民が助け合うために大切だと考えていることは、31のサブカテゴリーから【普段から関係を深める】【意図的につながる機会をつくる】【住民を理解する】【互いを認め合う】【節度を守る】【無理のない範囲で行動する】【安心して子育てができる環境を整える】【高齢者を支えようとする思いを持つ】【住民サービスを活用する】の9カテゴリーが見出された。子育て住民が助け合いと考えている行動は、18のサブカテゴリーから【子どもと一緒に守り育てる】【高齢者を気にかけて支える】【地域の活動に協力する】【住民の生活を支える】の4カテゴリーが見出された。</p> <p>【考察】 子育て住民が住民同士で助け合うために大切なこととしては、3つの側面があると考えられる。1つ目は、どこで暮らしていても、誰に対しても必要となる『助け合っていく上での基盤となる認識と行動』であり、さらにそれらは、1) 関係構築、2) 心掛け、3) 資源の3つに関連する認識に行動が伴っていることが示唆された。2つ目の『子育てを行う上での助け合い』は、子育てや子どもの発達を助ける上で安心して子育てができる環境の整備や、ニーズに応じたサービスの構築が必要と言える。また、地域の人々と信頼しあい、ともに子育てができるコミュニティを作ることや、助け合う行動をとるには、《地域の子どもの背景を知る》ことの重要性が示された。3つ目の『高齢者との助け合い』は、出来る住民が出来る範囲で《高齢者の日々の暮らしに注意を払う》ことが高齢者だけでなく、高齢者の家族にとっても安心した生活を送ることにつながる考えられる。また、気遣いや助け合いを積み重ね、信頼関係を構築すると、助けを必要とする際に、地域の中で自然に助け合えることが示唆された。よって、地域の体制づくり携わる看護専門職者は、住民の暮らしや助け合いの実際を把握し、住民のニーズを踏まえるとともに、住民がすでに持っている強みを活かして地域づくりを進めていく必要がある。</p>	